

WICI ジャパン 9 月定例研究報告会のご案内

開催日時：2018 年 9 月 20 日(木) 18:30～20:30

会 場：PwC あらた監査法人大手町パークビル 15 階セミナールーム
〒100-0004 千代田区大手町 1-1-1

開催趣旨：統合報告における価値創造プロセスの客観化を一層進め、発行体の価値創造プロセスを内外のステークホルダーと共有することを通じ、価値創造の協働化を進めることに繋げる。これまでの経験から、統合報告の作成にあたっては、「マテリアリティ」と「コネクティビティ」が常に課題となってきた。一覧性を持ちつつ、関係要素のつながりを明確にできる「経営デザインシート」(2018 年 5 月内閣府作成)は、これらの課題の解決に有効なツールであることから、その活用を体験することを通じ、ヒントを得る。

プログラム案：

18:30～18:35 本日の研究報告会の進め方

18:35～19:15 第 1 スロット「2018 年度後半の活動について」・・・事務局

- ① WICI ジャパン統合報告セミナー
- ② WICI ジャパン統合報告優良企業賞審査
- ③ WICI ジャパン 2018 年度会員総会
- ④ WICI ジャパン経営デザインセミナー
- ⑤ WICI シンポジウム 2018

19:15～19:25 休 憩

19:25～20:25 第 2 スロット「『経営デザインシート』を作成してみよう」

内閣府知的財産戦略推進事務局 参事官

仁 科 雅 弘 氏

仁科参事官から「知財のビジネス価値評価検討タスクフォース報告書」の重要ポイントの概要について説明を受けたいと、予め参加者に作成を試みていただいた其々の所属発行体ないし関与発行体の「経営デザインシート」について、その作成と活用に関しグループごとに内閣府メンバーの助言者を交え質疑応答、意見交換等を重ねながら検討する。

予め参加者に作成を試みていただく「経営デザインシート」に関する効用と準備要領については「別紙」のとおり。

なお、当日は直前の「休憩」時間に、参加者の所属先等を参考に 4 グループを編成する。

20:25～20:30 今後の研究報告会等の事務連絡・・・事務局

【別紙】 「『経営デザインシート』を作成してみよう」の事前準備メモ

<効用>

モノよりも、体験や共感が市場を牽引する 21 世紀においては、ユーザの多様な価値観に訴求するビジネスを構想する（デザインする）ことが経営における最大の課題となってきました。では、各社において、これまでどのようにビジネスをデザインし、今後はどのようにしていくのか。それが明確になれば、統合報告で伝えたいメッセージの骨格を作ることができるでしょう。「経営デザインシート」は、それを円滑にするためのツールであり、マテリアリティとコネクティビティの問題を同時に解決することが可能になります。

<事前準備に向けて>

・経営デザインシートは、①自社や事業の存在意義を明確に意識し、②従来の価値創造メカニズムを把握するとともに、③将来ありたい価値創造メカニズムを構想し、そのために④今から何を行うべきかの戦略を策定するための思考補助・デザインツールです。ステークホルダーとの対話促進にも御活用いただけます。

・経営デザインシートは、各事業の統合的運用で価値創造をデザインする「全社用」と、個別事業の価値創造をデザインする「事業用」で構成されます。次回の研究報告会では、各位の御関心に応じて班に分かれていただき、それぞれのレクチャーと作成ワークショップを行います。

・レクチャー等で底本とする資料は首相官邸サイト「経営をデザインする」に掲載中の『報告書 ～ 経営をデザインする ～』⁽¹⁾ 及び『報告書別冊（経営デザインシート記載要領）』⁽²⁾ です。

同サイトにはシートの活用例（仮想事例）が掲載されています。

事前に報告書別冊にお目通しいただき、活用例参照しながら同サイトに掲載中の雛型（「全社シート」又は「事業シート」）で事前作業を行っていただくと、セミナーの時間をより有意義にお過ごしいただけることと思います。

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/keiei_design/index.html

・なお、今回は約 1 時間で経営デザインシートの概略を掴んでいただくことを目的としますが、統合報告書への応用を目的とした数回シリーズの集中セミナーを年明けから年度末に開催する予定です（募集開始は 11 月予定）。

※注記

(1) 『知財のビジネス価値評価検討タスクフォース報告書～経営をデザインする～』

事前に少なくとも同報告書の第 2 章「価値創造メカニズムの把握とデザイン」を通読されることをお勧めします。

(2) 『経営デザインシート 記載要領』

上記の『報告書』の第 2 章の通読にあたり、脇に置いて該当箇所を参照されることをお勧めすると共に、当日ご持参いただくと理解が深まると存じます。

<注記（1）および（2）は事務局による>